

最初に

注意していても起こってしまうのが

針刺し事故・・・。

しかし、そんな時こそ慌てず、適切な対応をとれるようにしましょう。

19

針刺し事故が起きたら・・・



針刺し発生！

原因器材（針）の血液等の付着

無

傷を手当し、上司へ報告、針は交換

有

直ちに傷口より血液を搾り出す・流水で洗う

針刺し事故報告書記入

- 血液検査実施（早急に！）
HBs抗原、HBs抗体、HCV抗体、HIV抗体
GOT、GPT
- ※自分自身がキャリアかどうかをまず調べる
- ※これらの検査は全て労災扱いとなる

針刺し事故報告書

氏名 _____ 男・女 年齢 _____ 職 _____

発生時間 _____ 年 月 日 時 分

発生場所 _____

事故発生状況（日時、場所、状況、点検のとき、その他、詳細） _____

■ 傷の場所（下図に書き入れてください）

傷の深さ（圧迫なし、圧迫性（少量の出血）、圧中程度（少量の出血）、深さ（出血）、深さ（出血）、深さ（出血）） _____

原因器材（①器具名 ②器具種 ③器具製造元 ④その他） _____

被害者の感傷切

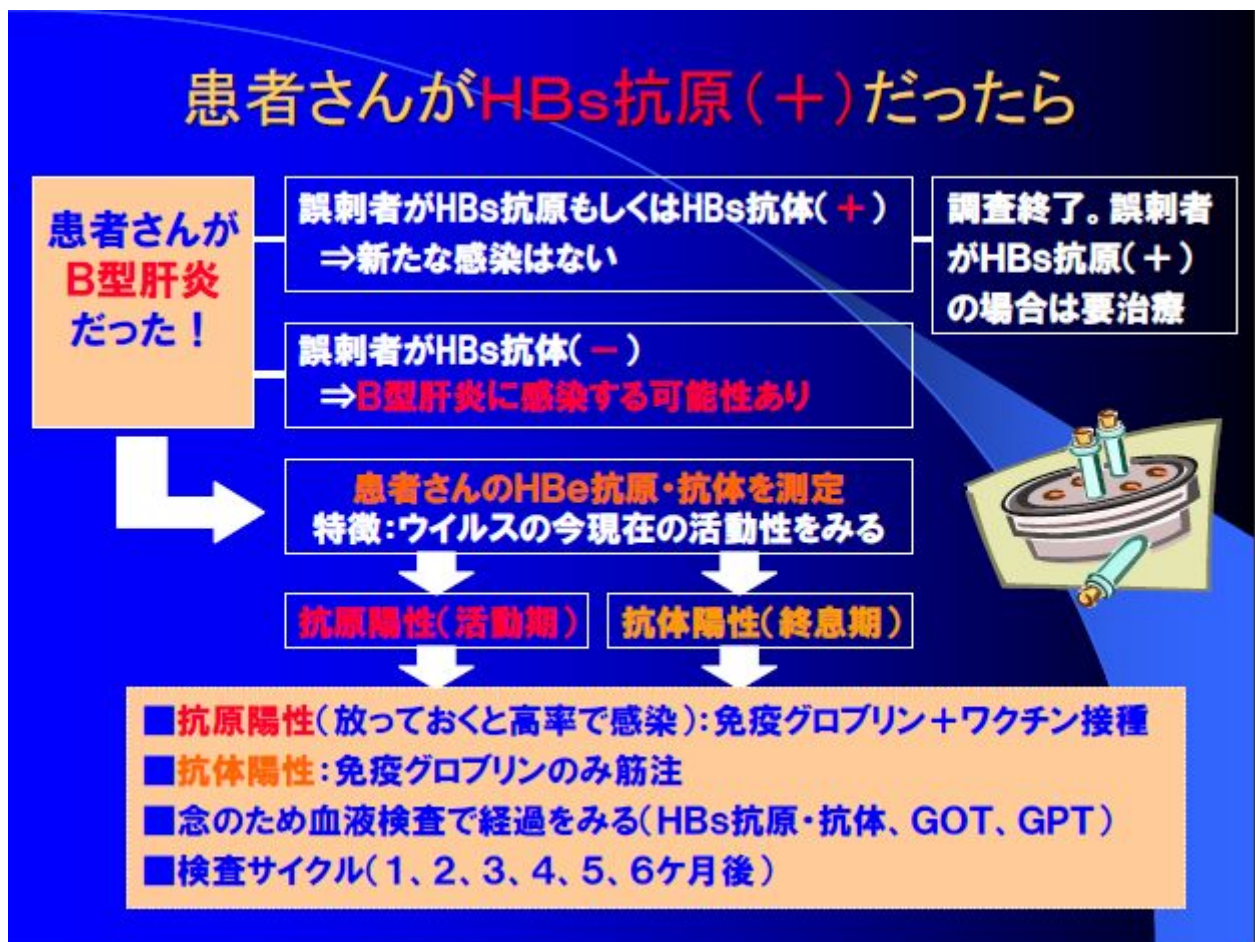
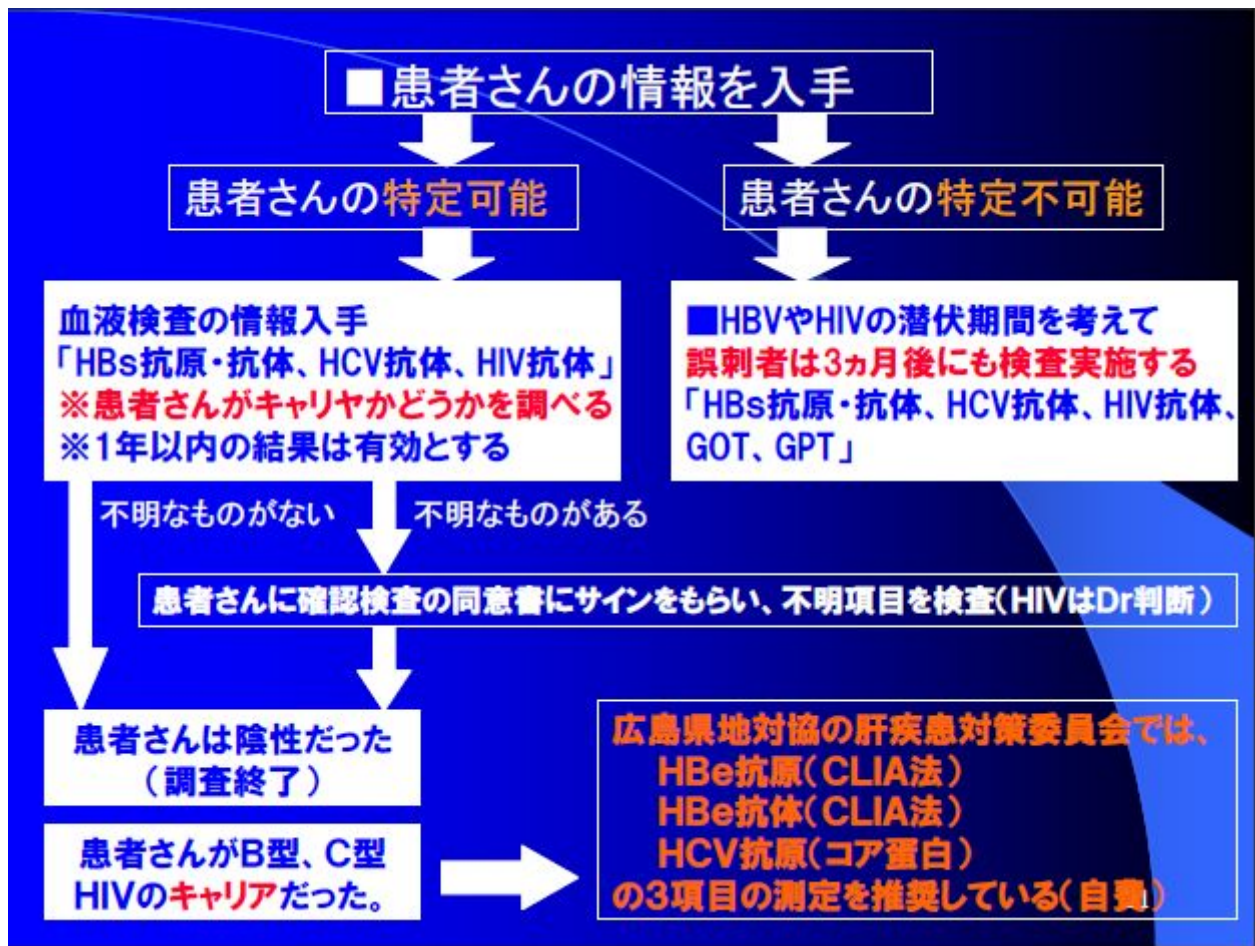
HBs抗原（ ） HBs抗体（ ） HCV抗体（ ） HIV抗体（ ）

被害者の感傷切

HBs抗原（ ） HBs抗体（ ） HCV抗体（ ） HIV抗体（ ）

被害者の感傷切

HBs抗原（ ） HBs抗体（ ） HCV抗体（ ） HIV抗体（ ）



患者さんがHCV抗体(+)だったら

患者さんが
C型肝炎
だった!

誤刺者がHCV抗体(+)
⇒新たな感染はない(調査終了)

誤刺者がHCV抗体(-)
⇒C型肝炎に感染する可能性あり(約1.8%)



高力価(50超)

中力価(5~50)

低力価(1~5)

患者さんのHCV抗原(コア)を測定
特徴:ウイルスの存在と量を見る

陽性の場合、慎重に経過観察

- 現状ではC型肝炎の予防対策はない
- 念のため血液検査で経過をみる(HCV抗体、GOT、GPT)
- 検査サイクル(1、2、3、4、5、6ヶ月後)
- 念のため1ヶ月後にHCVRNA定性を追加測定(自費)

患者さんがHIV抗体(+)だったら

患者さんが
HIV感染者
だった!

誤刺者がHIV1・2抗体(+)
⇒既にHIVに感染しているためフォロー

調査終了

誤刺者がHIV抗体(-)
⇒HIVに感染する可能性あり(0.5%)



- 院長が誤刺者へ説明
- 抗HIV薬の服用開始の同意書にサインをもらい、速やかに服用開始
- 患者さんへのインフォームも並行
- 念のため、血液検査で経過観察(HIV1・2抗体)
- 検査サイクル(1、3、6ヶ月後、1年後)

針刺し事故が起こりやすい環境

時間があるときチェックしてみてください



- いつもやたらと忙しい(針先に集中していない)
- 患者さんと笑い話などしながら処置したことがある。
- 処置後、直ぐに針を捨てないことがある。
- 処置後、自分ではなく他者が針を捨てたことがある。
- リキャップすることがある。
- 針を持ったままで、他の動作に入ることがある。
- 沢山入れようと廃棄物を無理に手や足で押し込んだりする。
- セフティーナや消毒綿を手元に置かずに処置したことがある。
- セフティーナや消毒綿を他の看護師と共有し移動させている。
- ナースシューズではなく、サンダルを履いている。
- 自分は絶対大丈夫と思っている。

針刺し事故対応マニュアル (広島市医師会HP)

広島市医師会について

市民の皆様へ

医療機関検索

マイシティ

広島市医師会
www.city.hiroshima.med.or.jp

ログをクリックで広報紙キラリ

タミフル服用後の異常行動について
平成19年3月20日 厚生労働省
・中外製薬株式会社

広島市医師会治験支援事業のページを

個人情報保護について

広島市医師会連盟
安芸市民病院

臨床検査センター

広島市医師会看護専門学校

健康タウン江波

学校
健康タウン江波

広島市地域で介護支援事業推進協議会

広島県感染症情報センター

広島市感染症情報センター

今月のIMPACT

www.city.hiroshima.med.or.jp

各委員会からのお知らせ

- ・ 医師会だより
- ・ 臨床検査センターだより
- ・ 広報部より
- ・ 広島市の救急医療体制に関する意見
- ・ パソコン研学会
- ・ 感染症廃棄物処理
- ・ 広島市地域がん登録事業

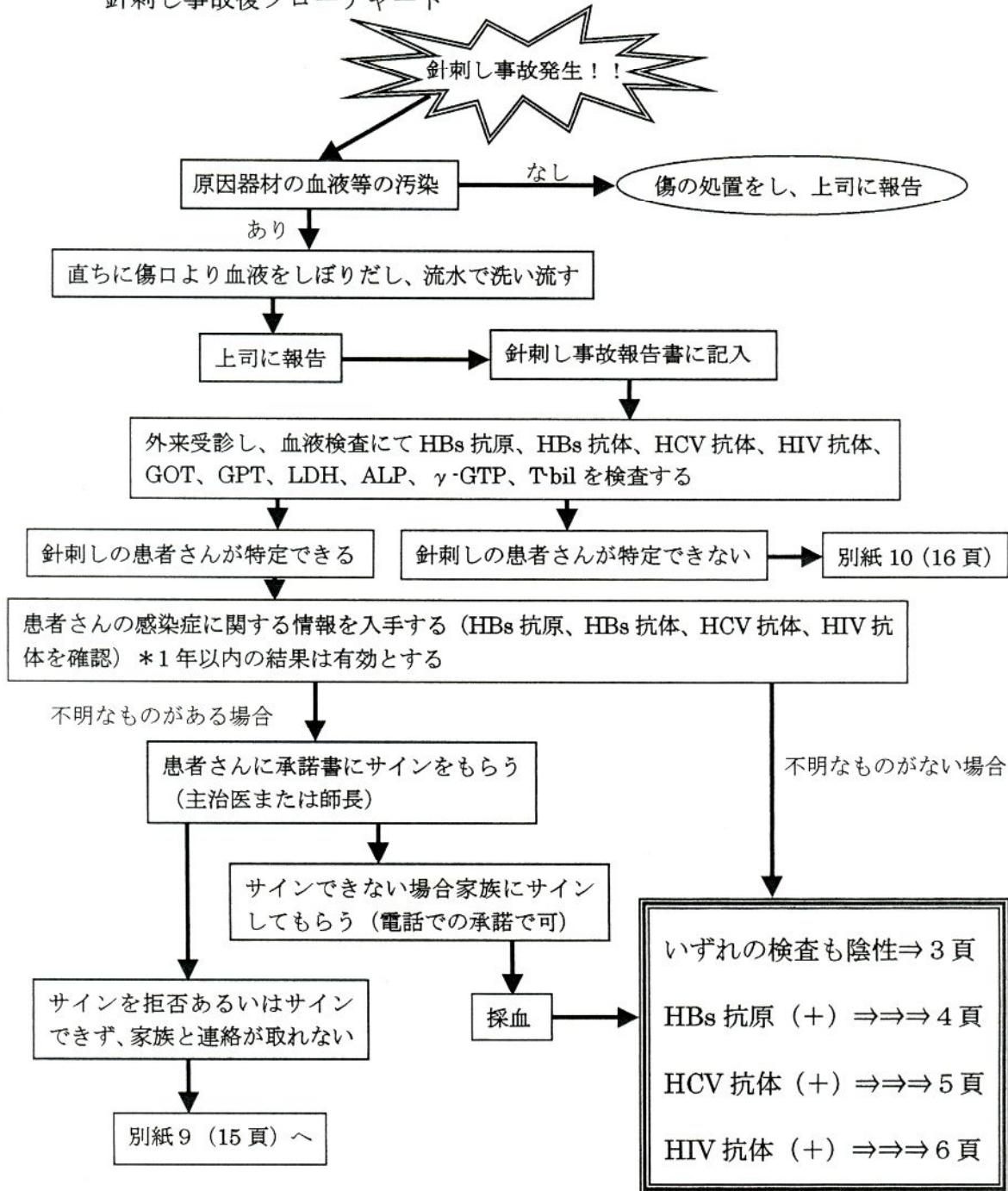
講演会スケジュール

- ・ [講演会スケジュール](#)

資料

- ・ [ピピオ・バルニフィカスに関するQ&Aについて\(厚生労働省\)](#)
- ・ [駐車禁止規制等適用除外標章の申請について](#)
- ・ [医師会標準\(PowerPointスライド\)\(アニメーション・アニメ\)](#)
(※アニメーションはPowerPointのバージョンによっては正しく動作しない場合があります。)
- ・ [診療予約申込書共通版\(Microsoft Excelファイル\)](#)
※改定版マニュアル(平成15年4月)
- ・ **[針刺し事故対応マニュアル\(PDF\)](#)**
- ・ [パンフレット](#)

針刺し事故後フローチャート



針刺し事故対応マニュアル

(本マニュアルはみさと健和病院、都立駒込病院等のマニュアルを改変したものであり、無断での転載はご遠慮ください。)

針刺し事故対応マニュアル

1、まず針刺し事故が発生したら！！

- I、原因器材に血液等の汚染がない場合
傷の処置をし、上司に報告
- II、原因器材に血液等の汚染がある場合
 - ① 直ちに傷口より血液をしぼりだし、流水で洗い流す
 - ② 上司に報告する（夜間は管理当直）
 - ③ 針刺し事故報告書に記入
 - ④ 外来受診し、血液検査にてHBs 抗原、HBs 抗体、HCV 抗体、HIV 抗体を確認（夜間は当直医）

2、患者さんの血液検査を行なう

- ① 患者さんの感染症に関する情報を入手する（HBs 抗原、HBs 抗体、HCV 抗体、HIV 抗体を確認）1年以内の検査結果は有効とする
どれか1つでも不明のものがあれば採血（ただし、HIV 抗体に関しては主治医の判断とする）
患者さんに承諾書にサインをしていただく（別紙2）〔主治医または師長〕
 - ★ 患者さんがサインできない場合は家族にサインしてもらう
（患者さんの家族に電話での承諾も可とする）
 - ★ 患者さんがサインを拒否した場合⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒別紙9
 - ★ 患者さんがサインできず、家族と連絡不能の場合⇒ 別紙9

ここまでを針刺し事故発生後30分以内を目標に行なう

* HIV 陽性血液の針刺し事故の場合、2時間以内の予防薬内服が必要です

患者さんの血液検査の結果

- ◎ いずれの検査も陰性のとき・・・針刺し事故マニュアル陰性編（3頁）
- ◎ HBs 抗原（+）のとき・・・針刺し事故マニュアルHBV編（4頁）
- ◎ HCV 抗体（+）のとき・・・針刺し事故マニュアルHCV編（5頁）
- ◎ HIV 抗体（+）のとき・・・針刺し事故マニュアルHIV編（6頁）

3、針刺しの患者さんが特定できない場合⇒⇒⇒別紙 10

針刺し事故対応マニュアル 陰性編

◎患者さんの血液が HBs 抗原、HIV 抗体とも陰性の時

被事故者（職員）の採血を行い、HBs 抗原、HBs 抗体、HCV 抗体、HIV 抗体、GOT、GPT、LDH、ALP、 γ -GTP、T-bil を検査する

☆ 2 ヶ月後に同じ採血を行う

HBV や HIV の潜伏期を考えて、確認のための検査です

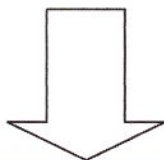
針刺し事故対応マニュアル HBV 編

◎患者さんが HBs 抗原陽性の時

☆48時間以内に被事故者（職員）の HBs 抗原、HBs 抗体を測定する

1、被事故者が HBs 抗原陽性もしくは HBs 抗体陽性（16倍以上） のとき
⇒新たな B 型肝炎の感染の可能性はありません

2、被事故者が HBs 抗原陰性かつ HBs 抗体陰性 のとき
⇒B 型肝炎感染の可能性がります



- ①平日の日中は薬局に問い合わせて抗 HB グロブリンを発注
日曜祭日休診日夜間等は管理当直に連絡
- ②抗 HB グロブリンは 48 時間以内に筋注する 施行前に
『輸血・血漿分画製剤に関する説明 同意書』に被事故者の署名をして
もらう
- ③事故後 2 週、1 ヶ月、3 ヶ月、5 ヶ月、6 ヶ月、7 ヶ月後被事故者の
採血を行う 内容は HBs 抗原、HBs 抗体、GOT、GPT、LDH、ALP、
γ-GTP、T.bil
- ④これら全て労災扱いとし、労災カルテに記載する

針刺し事故対応マニュアル HCV 編

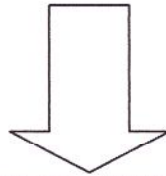
◎患者さんが HCV 抗体陽性の時

1、被事故者が HCV 抗体陽性のとき

⇒新たな C 型肝炎の感染の可能性はありません

2、被事故者が HCV 抗体陰性のときあるいは不明のとき

⇒C 型肝炎感染の可能性がります



- ①今のところ C 型肝炎の予防対策はありません
- ②被事故者の採血を行う
内容は HBs 抗原、HBs 抗体、HCV 抗体、HIV 抗体、
GOT、GPT、LDH、ALP、 γ -GTP、T-bil
- ③事故後 1 ヶ月、2 ヶ月、3 ヶ月、6 ヶ月に被事故者の採血を行う
内容は HCV 抗体、GOT、GPT、LDH、ALP、 γ -GTP、T-bil
- ④これら全て労災扱いとし、労災カルテに記載する

針刺し事故対応マニュアル HIV 編

◎患者さんが HIV 抗体陽性の時

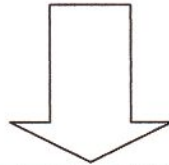
まず被事故者の採血を行う

1、HIV 抗体陽性のとき

⇒すでに HIV に感染しています 定期的なフォローを

2、HIV 抗体陰性のとき

⇒HIV 感染の可能性があります



- ①責任医師に連絡 被事故者への説明《別紙3 8頁》を行う
- ②針刺し事故フローチャート（別紙5）に従う
- ③抗 HIV 薬の予防的服用開始に関する同意書（別紙6）もしくは抗 HIV 薬予防的服用拒否に関する承諾書（別紙7）にサインをしてもらい、開始の場合はできるだけ早く服用する《事故から2時間以内》
- ④患者さんへのインフォームを責任医師が行う（別紙4 9頁）
- ⑤労災カルテに全てを記入し、同意書のコピーを添付
- ⑥被事故者の採血を1、2、3、6ヵ月後に行う
内容は HIV 抗体、GOT、GPT、LDH、ALP、 γ -GTP、T-bil

針刺し事故報告書

患者氏名 _____ 男・女 年齢 _____ 歳

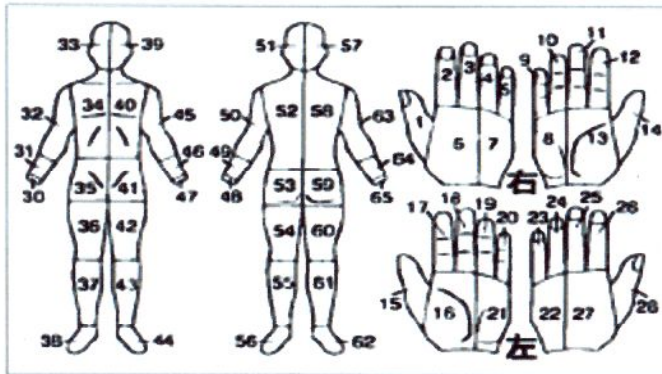
・発生時間： _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 時 _____ 分

・発生場所： _____

・事故発生の状況：①採血時 ②注射・点滴のとき ③その他

詳細： _____

・傷の場所（下図に書き入れてください）



・傷の深さ：①出血なし ②表在性（少量の出血） ③中程度（皮膚の針刺し・切創、中程度の出血） ④重傷（深い針刺し・切創、著しい出血）

・原因機材： ①翼状針 ②注射針 ③静脈留置針 ④その他（ _____ ）

患者さんの感染症

HBs 抗原 () HBs 抗体 () HCV 抗体 () HIV 抗体 ()

被事故者の感染症

HBs 抗原 () HBs 抗体 () HCV 抗体 () HIV 抗体 ()

被事故者氏名 _____ 所属 _____

採血および感染症検査に関する同意書

患者氏名 _____ 様

この度、患者様の血液の付着した____が、誤って職員に刺さってしまう事故が発生いたしました。普段からこのような事故がおきないように十分に気を付けて参りましたが、誠に残念なことに事故がおきてしまいました。

つきましては、職員へのウイルス感染予防のため、患者様の血液検査（ウイルス検査）を行わせていただきたいと思います。

検査の費用は当方で負担させていただきますので、何卒ご協力をお願いいたします。検査結果は後日ご報告させていただきます。

<検査項目>

- ★ HBs 抗原・・・B型肝炎ウイルスの検査
- ★ HCV 抗体・・・C型肝炎ウイルスの検査
- ★ HIV 抗体・・・後天性免疫不全症ウイルスの検査

以上を予定しております。

年 月 日

担当者氏名 _____

◎ 上記の説明を受け、採血・検査を受けることに同意します

年 月 日

患者氏名 _____

患者家族氏名（代筆の場合） _____

針刺し事故にて患者血液で HIV（+）が判明した時

・・・被事故者（職員）への説明

*本人同意の上で師長、主任など上司に同席してもらい必ず個室で行う

この用紙は説明用マニュアルで、本人に渡すものではありません

- ①驚きだと思うが、落ち着いて聞いて欲しい
- ②簡易テストで患者の血液が HIV 陽性であった
- ③簡易テストの感度は 100%、特異度は 99%（偽陰性 1%）とされている
- ④HIV 感染血液による医療事故での HIV 感染の可能性は 0.3%といわれている
- ⑤患者の HIV について精密検査は行うがその結果が出る前に、感染の危険を下げるため、これから 2 時間以内に感染予防の薬を 3 種類服用する必要がある
- ⑥感染予防薬を飲むことで感染の危険はさらに 5 分の 1 になるといわれている
- ⑦これらの薬には、別紙のようにいろいろな注意と副作用があります
- ⑧これらの薬は 4 週間飲み続ける必要があります
- ⑨専門病院である広島大学医学部附属病院、県立広島病院、広島市民病院のいずれかにはこちらで相談して、受診方法などは聞いておくことを伝える
- ⑩説明はわかりましたか？言いたいこと、聞きたいことはありませんか？共感的態度で傾聴する
- ⑪次の面接日時の指定（1～2 日以内）
- ⑫いつでもどんな些細なことでも相談してもらってかまわないこと、すぐに分からないことは責任を持って専門医に問い合わせることを伝える

針刺し事故にて患者血液で HIV (+) が判明した時

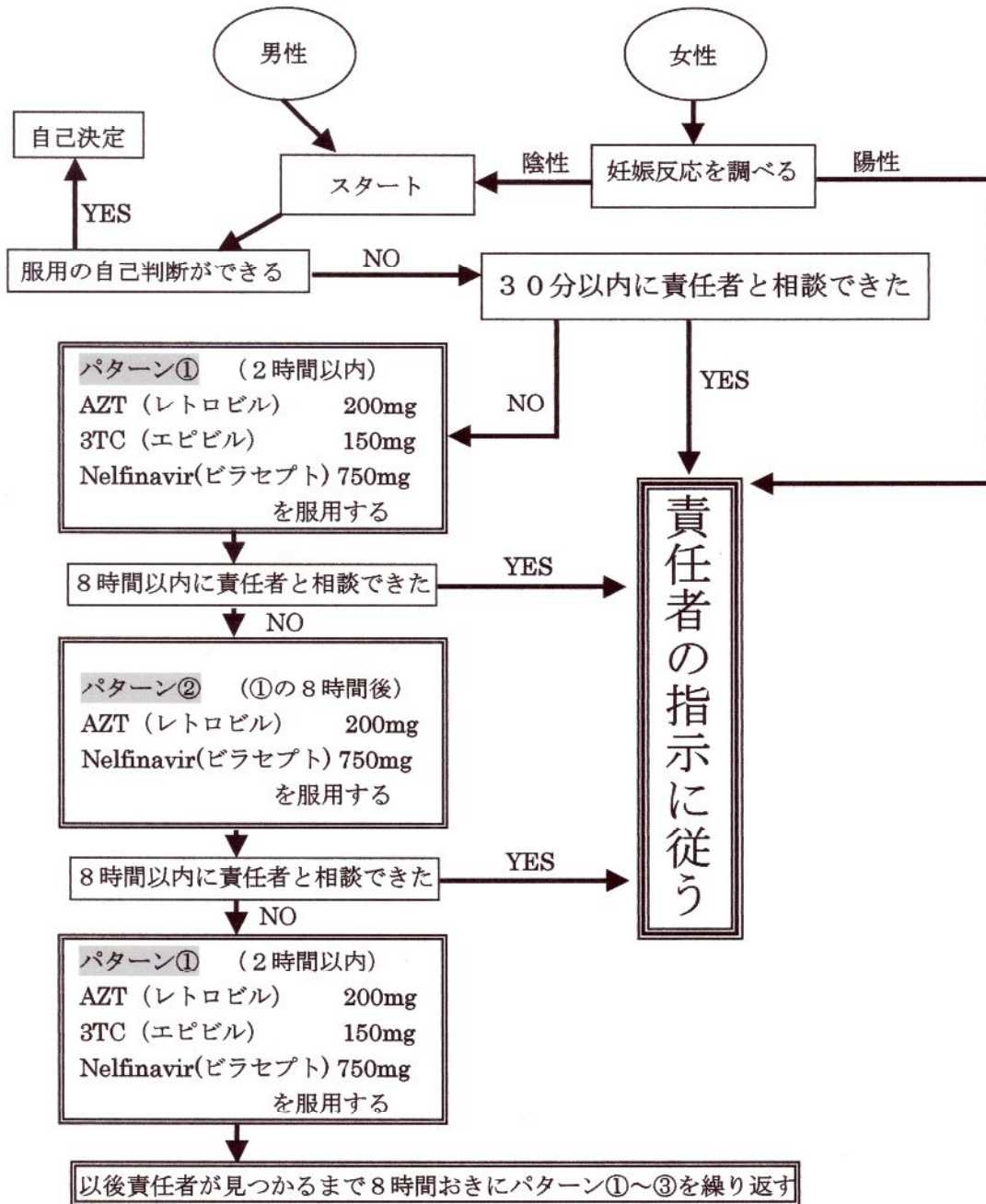
・・・患者への説明

*看護婦に同席してもらい必ず個室で行う

この用紙は説明用マニュアルで、本人に渡すものではありません

- ①簡易テストで HIV (+) であったこと
- ②今後の検査および治療については、保険診療の扱いになる
- ③簡易テストなので、精密検査には提出する
- ④HIV (+) の意味すること。いわゆるエイズではなく、また=死ではないこと
- ⑤HIV(+)は予想していましたか？どのような気持ちですか？共感的態度でひたすら傾聴する
- ⑥HIV というウイルスが体内にいることを示しており、このウイルスが体内に入ってからいわゆるエイズという状態になるまでに 10 年くらいかかるといわれている
- ⑦医学の進歩により、ウイルスが体内に入っても、エイズの状態になるまでの期間を引き延ばすことができる。また、エイズの状態にあっても様々な治療が行われている
- ⑧今しなくてはならないことは、患者がどの段階にいるのかをきちんと捕らえ、今の状態にあった治療を選択すること
- ⑨このために、まず専門病院を受診することが必要
- ⑩もちろん、われわれもできるだけ事はするつもりでいるので何でも相談してもらいたい
- ⑪こちらの話は以上だが、何か話したいこと、わからないことがありますか？いつでも声をかけてください

針刺し事故フローチャート (HIV の場合)



HIV 汚染針刺し事故における予防的服用に関するマニュアル

抗 HIV 薬の予防的服用開始に関する同意書

今回、私は同マニュアル内説明書により、HIV 汚染血液暴露後の抗 HIV 薬服用によって感染を予防する利益と、薬剤副作用による不利益についての説明を受け十分に理解しました。

私は、自らの意志により、HIV 感染予防のための薬剤服用を希望し、同意署名します。

事故内容：

服用薬剤にチェック

- AZT (レトロビル)
- 3TC (エピビル)
- Nelfinavir (ビラセプト)

同意日 年 月 日

所属 _____

署名 _____ 印

HIV 汚染針刺し事故における予防的服用に関するマニュアル

抗 HIV 薬の予防的服用拒否開始に関する承諾書

今回、私は同マニュアル内説明書により、HIV 汚染血液暴露後の抗 HIV 薬服用によって感染を予防する利益と、薬剤副作用による不利益についての説明を受け十分に理解しました。

私は、自らの意志により、HIV 感染予防のための薬剤を服用しないことを決定したので署名します。

同意日 年 月 日

所属 _____

署名 _____ 印

HIV 汚染針刺し事故における予防的服用に関するマニュアル

薬剤服用および副作用説明書

副作用については頻度の比較的高い主要なもののみ記載しています。その他の詳細については各薬剤の添付説明書を参照してください。

なお、副作用および継続服用については、責任者と常に連絡とりながら慎重な経過観察を必要とします。身体に異常を感じた場合は、速やかに主治医（責任者）に相談してください。

AZT（レトロビル）

効果：核酸系逆転写酵素阻害薬

剤形：白と青のストライプの入ったカプセル

服用方法：1回2カプセル、1日3回服用

副作用：嘔気、食欲低下、頭痛、倦怠感、血液障害、筋肉痛など

3TC（エビビル）

効果：核酸系逆転写酵素阻害薬

剤形：白色ひし形の錠剤

服用方法：1回1錠、1日2回服用

副作用：頭痛、倦怠感、下痢、嘔気、骨筋肉痛、鼻炎、ニューロパシー、血液障害など

Nelfinavir（ビラセプト）

効果：プロテアーゼ阻害薬

剤形：水色の楕円形の錠剤

服用方法：1回3錠、1日3回服用、食事摂取必要

副作用：発疹、下痢など

注意：（1）空腹時の内服では吸収が50%以下となってしまいます。

食事（脂肪を含むものがない）中あるいは食直後での内服にしてください

（2）当薬剤は、併用禁忌および注意すべき薬剤が多数あります。常用薬のある場合は、添付説明書で確認するか責任者と相談してください

◎患者さんが感染症採血を拒否した場合

⇒責任医師の判断

* HIV 感染のリスクが高いと判断した場合

- ★ 被事故者との相談で抗 HIV 薬の 1 回目の服用？
- ★ 何回か説得を繰り返す

* HB 感染のリスクが高いと判断した場合

- ★ 被事故者との相談で抗 HB グロブリンを注射
- ★ 更に何回か患者さんを説得して検査の承諾を得る

◎患者さんはサインができず、家族と連絡不能の場合

⇒責任医師の判断

* HIV 感染のリスクが高いと判断した場合

- ★ 被事故者との相談で抗 HIV 薬の 1 回目の服用？
- ★ 連絡方法を再度確認

* HB 感染のリスクが高いと判断した場合

- ★ 被事故者との相談で抗 HB グロブリンを注射
- ★ 連絡方法を再度確認

※針刺し患者さんが特定できない場合

被事故者（職員）の採血を行い、HBs 抗原、HBs 抗体、HCV 抗体、HIV 抗体、GOT、GPT、LDH、ALP、 γ -GTP、T-bil を検査する

- 2 ヶ月後に同じ内容の採血を行います。
(HBV や HIV ウイルスの潜伏期を考えて、確認のための検査です)

有病率と感染率の計算からは、下記のように HBV、HCV、HIV の感染の可能性は低いと考えられます。

HBV・・・約 0.8% HCV・・・約 0.03% HIV・・・約 $1.2 \times 10^{-5}\%$

国内外の文献やコンサルテーションから、感染源不明の針刺し事故の場合、HBV のみが問題とされています。

抗 HB グロブリンについては、HBV の感染は 90%防げますが、抗 Hb グロブリン自体が血液製剤であることから、アレルギーや未知の感染症への感染の問題もあり、どの報告でも接種を勧めていません。被事故者（職員）が強く希望した場合のみ個人の責任で行うこととする。

今後の感染予防のために、HB ワクチンの接種を行うことが勧められている。

針刺し事故後フローチャート

